

ちよつと 一時間で生ごみが減りました!!

我が家の生ごみを毎日、量ってみました（H22.9～H23.7）
 11ヶ月間で台所の生ごみ50.43kg、その他の可燃ごみ66.78kgでした。
 つまり、生ごみは可燃ごみの約40%でした。
 そしてある日の（12月、7月）の生ごみを、2、3日干した後の重量を量ったのが次の表です。

台所の生ごみ	1日後	2日後	3日後
12月 370g →	200g (54%)	100g (27%)	75g (20%)
290g →	160g (55%)	105g (36%)	75g (26%)
7月 310g →	140g (45%)	80g (26%)	・・・スイカの皮のみ

剪定した枝、葉も …… 11日間干した結果

7月 4.0kg →	2.2kg (55%)
------------	-------------

おおよそ、生ごみは干すと1日でも半分になります。生ごみは燃えるごみの約40%なので、燃えるごみ全体を1とすると生ごみは0.4、その他の可燃ごみは0.6となります。 $0.6 + 0.4 \times 0.5 = 0.8$ たった1日で約2割も、重さが減りますね。

皆が一時間かけると、ごみを運ぶエネルギー(燃料)、焼却炉の燃料も減るとのことなのです。

さあ、干せないときも、水切りをしっかりと、自分なりのエコ活動をやりましょう!
 (T.M)



あきる野ごみ収集実績

(あきる野市事務報告書より)

	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
一人1日あたりごみ量 (g)	1,006.7	1,040.9	892.6	892.5	894.7	864.2	842.2	804.9	795.8

※ここでいう「ごみ」とは、家庭から出る、「可燃ごみ」「不燃ごみ」「粗大ごみ」「資源ごみ」「有害ごみ」をいう。

平成16年4月1日から、ごみの戸別収集と市指定ごみ袋の有料化により、分別の徹底と燃やせるごみ、燃やせないごみを減らし、資源化を推進してきました。この年の11月に、市民・事業者・行政の3者が協力して「ごみをつくらない、ごみとしない、ごみとさせない」の3要素を推進していくために「あきる野ごみ会議」(現:廃棄物減量等推進員)が発足しました。

以来7年、生ごみの減量・堆肥化の推進、レジ袋使用削減の呼びかけ、市民への広報活動の一環である「へらすぞう」の発行等々、活動してきました。

その結果なのか、平成22年度と16年度を比較すると、一人1日あたり97gの減量という数字になっています。ただし、この数字の評価は簡単にはできませんが、多摩地区32市町村との比較では、決して大きい数字ではありません。

(S.M)



シンプル生活への入り口

ある日突然、娘が「部屋を片付ける」と言い出した。整理のハウツー本に影響されたらしい。お気に入りのアーティストの音楽をかけながら黙々と作業。半日で、娘の部屋の前にはゴミ袋が山積みになった。足の踏み場もなかったあの部屋が、である。初めての片付いた光景であった。

「あー、すっきりしたあ！お母さんもやったらあ！」と鼻歌まじりの“すっきり顔”で言う。「あなたに言われたくないわよ」といったものの、我が書斎を改めて見渡すと、部屋の中は納まりきれない物や本が散らばっていた。娘のすっきりした表情をみて、「よーし、私もやるか！」と、思い切って捨てることから始めた。

捨てる始めて気づいたことは、「またいつか使うかもしれない・・・」「読むかも・・・」「やせたら着るかも・・・」など、どれだけ“今”は必要でない物に囲まれ、身動きがとれなくなっていた、ということだった。

“今”に時間軸を置いて、捨てる、捨てない、を判断していくと片づけが断然スピードアップする。不思議である。進めていくと、いつの間にか娘同様、鼻歌を歌っている自分に気づいた。これはとても面白い現象だった。えー、何で？どうやら不要な物を捨てる始めると、心が軽くなるらしい。

そんな私に、今度は夫が触発されて、自分の部屋を片付け始めた。えー、伝染？

かくして我が家の前は、まるで引越しのようなゴミ袋の山となった。でもこれは、単に“物”が中から外へ移動して“ゴミ”になっただけである。ゴミの山を見て胸が痛む。そして天に向かって誓ったのだ。

「これからは、ゴミになる可能性のあるものは、極力買わない、頂かない、作らない。」シンプルに生活しよう！

(雨間在住 N.Kさんより)



落ち葉堆肥化プロジェクト



平成22年10月に、草花台パークハイツB公園と前田公園に堆肥化わくを設置し、パークハイツは町内会が中心に、前田公園は「ごみ会議」が中心に運営を開始しました。最初は右も左も分からない状況でしたが、メンバーのM氏の指導のもと、皆さんが集めた落ち葉が立派な腐葉土へと変身しました。

11月の下旬には山盛りになっていた落葉は、3月ごろまでは気温も低く、雨も降らなかったためか、手を入れるとほんのり温かいだけで見た目は変化が無かったのですが、春になると気温が高くなり雨による水分補給を受けて堆肥化がどんどん進み始めました。

4月からは、均一に堆肥化させるため、月に1回切返し作業をすることにしました。切返し作業は、子どもの頃虫取りに行った雑木林と草むらが入り混じったような香りがして懐かしい感覚がありました。切り返しをするたびに落葉が腐葉土になり、量が減って熟成しているのがよく分かりました。6月の切返し作業のとき堆肥化わくの中に大量の枝葉や木の根、笹の葉等が投入されていました。これらのものは、分解に時間がかかったり、堆肥の熟成を阻害したりするので、分別して処理しました。

木々から落ちた葉が、1年をかけて腐葉土に変化し、草木の栄養となり、また落葉となる。今、様々な問題はあるが、自分で作った腐葉土を使って、自分で食べる野菜を作ることが出来ること。これって結構贅沢なのではないでしょうか。

(環境課)



切返し作業

編集後記

3月11日を境に「戦後の日本」が「震災後の日本」に変わった。食の安全の代名詞であった「国産」「地産地消」といった言葉が別の言葉と化した。

失ったものがあつた一方、意外な贈り物もあつた。3月末に行われた計画停電では、輝く無数の星に感動した。東京の夜空にもこんなにも星が輝いていたとは！と。

平穏な日常生活の中で埋もれていた大事なことに目を向けるようになった。アップされていれば24時間どこでも誰でも見ることが出来るYouTubeで貴重な映像に出会える。チェルノブイリという人類の負の遺産は今や日本人の心に重くのしかかるが『被曝の森はいま』(人間が去った人工の町に見かけ上は見事な生態系を誇る森が誕生)や『内部被曝に迫る』(強制移住にならなかつた周辺住民の25年後の姿と被曝のデータ)は、必見である。フェイスブ

ックからは『原子力のたそがれ』(マイケル・シュナイダー著)という記事を手した。米・仏・独では既に再生可能エネルギーがコストの面からも優位に立ったことを示している。(『世界』2011年1月号)また『正しく知る地球温暖化』(赤祖父俊一著)という本にも出会った。学術的な分析のもとでCO₂原因説は原発推進のためのプロパガンダであると指摘している。ネット <http://atmc.jp/> では全国の放射能速報から福島原発のライブ映像(ふくいちカメラ)にいたるまで即座に原発情報を得ることが出来る。

今「生活を見直す時が来た」とよく言われる。一人ひとりがあふれる情報の中から善いものを選んでいけば「震災後の日本」は「戦後の日本」よりきっと素晴らしい国になる、そう思える今日この頃である。

(R.K)

